

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社 おおいし		
事業所名	グループホーム くつろぎ(ユニット1)		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	平成23年12月14日	評価結果市町村受理日	平成24年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoicho-hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0174100768&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「明るく、楽しく健康で」をモットーに利用者の方たちと手作りゲートボールや手工芸等しながら笑顔を大切に明るく笑い声のあふれるホームを目指して、日々利用者の方と共に生活をしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年1月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、交通量が少ない住宅・アパート・会社事業所が混在する場所で、ホーム前にバス停があり家族等の訪問に便利な所に位置している。ホーム全体に日差しが入り、明るく清潔で、加湿器や空気清浄器を設置し、温度調整に気をつけている。利用者はカラオケや手作業で作品を作るなどのんびりと一日を過ごしている。地域との関わりも積極的で、シルバー展に作品を出し、事業所の夏祭りには、地域住民や近隣の事業所の利用者等の参加があり、地域の入江祭り・住之江祭り・町内会盆踊りなどには当事業所の職員と一緒に利用者も参加し、踊ったり、スイカやおでんを食べるなどして交流している。誕生日にはすし屋などに出かけ、利用者の楽しみになっている。今年度は職員の異動が多く利用者の不安も見られたが、今は以前の生活を取り戻し、理念である「明るく・楽しく・健康で」の生活をしている。職員は利用者の尊厳を守り、家族の絆を大事にしなが、その人らしい穏やか日々を送れるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく楽しく生活をしていると思うが、地域との関係が希薄である。又、今年は職員の入れ替わりが多く半数以上が今年入職したばかりなので実践不足は否めない	「明るく・楽しく・健康で・地域とともに」を理念とし、事業所にも掲示し理念が実践につながるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶はもちろんであるが、町内会に入会し、双方の行事への参加の呼びかけや相互参加もしているがもっと努力は必要と思われる	利用者は、職員と一緒に祭り・盆踊りなど町内会行事に参加し、日常的な挨拶をかわし、餅つきなど事業所行事に住民の参加を呼びかけ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会に参加された方へ向けての話に留まっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会への参加者は増えてはいない	町内会長・地域包括支援センター・家族が出席し、事業所の近況報告や利用者状況、行事予定などを話し合い、そこでの意見をケアサービス向上に活かしている。	2カ月に1回の開催を遵守し、緊急時の地域の協力体制など問題点を議題として議論してもらい、より積極的に運営推進会議の協力を得、複数の家族代表の出席を働きかけることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の関係者とは相談しやすい関係である。	市の担当職員とは常に連絡を取り合っている。担当者に対して利用者状況を報告し、ケアサービスの取り組みを相談し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束廃止委員会の開催とフロア会議の中でも検討している	職員は身体拘束をしないケアの重要性を理解して、月1回の全体会議の中で拘束にならないようケアについて話し合い、日々の業務の中で確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けた者の報告会もあり、毎月の会議や身体拘束廃止委員会・事故防止委員会でのヒヤリハットの検討の中で常に話し合いをしている		

グループホーム くつろぎ(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員への学ぶ機会は設けていないと共にこれまで対象者は入居されていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には2名体制で時間をかけて説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず声をかけて話す機会を設けており、入り口には意見箱を設置している	「くつろぎ通信」の中に個人通信を添付し、利用者の現況を知らせている。家族訪問時に積極的な声かけをして話す機会を持つようになっている。意見や要望があれば会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議、隔月の全体会議での意見交換と日頃から話しやすい姿勢を持ち、代表者もほぼ毎日顔を出し意思疎通に努めている	特に新人職員から意見や要望が出しやすいように更衣室にホワイトボードを設置し、なんでも書いてもらうようにした。書かれた意見等には、必ず、何らかの対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に際しての金銭面や勤務体制等のフォロー体制は出来ている。代表者は勤務姿勢等を考慮し、年に一度金一封を出している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加。日頃のケア指導もその都度しており毎月の会議等でも検討指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長はグループホーム協会ブロックの役員をしており、他よりの情報を得たり職員も研修や行事等で情報交換出来る機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご家族やケアマネージャー等からの情報を得ると共に本人とも話をして不安を取り除く様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や契約時訪問等の際は、良く話を聴く様にしており時には電話でも話をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には自ホーム入居のみを念頭におくことはせず、広範囲にどんなサービスが良いのか検討出来るよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の下ごしらえや食器の後片付け、配膳、下膳、魚を捌く、時には料理づくりの指導をして頂き入居者とともに生活をしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、全体通信と個人通信を送付、訪問時の情報交換に努め、定期的な電話や買い物付き添い等の協力をして頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅へ出掛けたり、姉妹が遊びに来たり、関係が途切れないように努めている	馴染みの理美容が来ている。家族と一緒に馴染みの場所に出かけたり、姉妹が遊びに来ている。希望により以前行ったことのある温泉に出かけるなど馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事への声かけや同テーブルの人の下膳をして頂いたり、遠慮されている方へ声をかけて同席を勧め話の輪の中に入れて頂いている		

グループホーム くつろぎ(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	少数だが交流を継続していたケースもあるが断ち切れてしまうケースが多いのが実情である		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人で静かに過ごしたい方は必要以上に干渉せずに見守りをしており日常的に料理をしたい方に魚の干し網を用意した。仏壇に供えるご飯を遠慮しないように前もって声をかけている	ケアの実施や見守りなど日々の関わりのなかで利用者の思いを把握し、記録やアセスメントを利用して利用者の意向に添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネ、関係者より情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録やアセスメント、申し送り等で把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや記録、フロア会議、評価会議等で意見交換し情報共有をして作成している	センター方式を使っている。担当制をとるが、全職員とモニタリングをしながら、家族や利用者の希望を聞いて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル、排泄、睡眠、飲食状況等の個人記録とその他の個人日誌、申し送りノート等を活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間介護の中で必要性に応じて対応していると共に必要な体制を確保するようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお店や理美容、医療、歯科医を確保して心身共に健康で生活出来るように支援に努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで受診されていた病院への受診時には手紙で情報を伝えたり、必要時には職員が同行して説明している	かかりつけ医への通院は基本的に家族が対応。利用者の生活ぶりや症状は詳細に記録した書類を出すなど受診支援をしている。家族から受診結果について報告を受け、情報を共有している。	

グループホーム くつろぎ(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約先の訪問看護師には来訪時、必ず情報伝達している。又、気軽に相談出来て、相談に乗ってくれている病院の看護師が対応方法を指導してくれたり訪問してくれたりしている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中にはお見舞いに行き、関係者との情報交換に努めている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とはその都度話し合い、対応方法を決めてチームと家族とで協力している	看取りの経験があり、重度化した時、職員は、担当医や家族と早い段階から話し合い情報を共有して対応し、チームで支援に取り組んだ。また、5名の職員が終末期ケアの研修を受講している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるものの定期的な研修、勉強会、訓練はしていない			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練はしているものの今年は半数以上の職員の入れ替えが多く不十分であり隣家から協力の申し出を受けているが、まだまだ不足している	避難訓練は年2回行なっている。避難訓練は職員と利用者のみで行ない、近隣住民の参加は得られていない。	夜間想定避難訓練も実施し、運営推進会議を活用して地域住民とのより一層の交流を図りながら、緊急時の地域との協力体制を構築されることを期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉かけ、1対1の対応等している	トイレ誘導の言葉かけ、汚物処理は他の人に気付かれないように、さりげなく行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当を決めており担当者がさりげなく会話の時間を設けたりと場面づくりに努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物、散歩等臨機応変に対応している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの服や外出時のおしゃれにも気をつけて本人に確認しながら支援している			

グループホーム くつろぎ(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、盛り付け、料理、片付け、食器拭き等のお手伝い及び食器の工夫や彩りも工夫するよう努めている	利用者の能力に応じて調理・配膳や後片付けをしている。畑の収穫物も食卓に上がり、誕生日には利用者の希望により外食に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や種類等記載して活用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、要介助者は介助し、自立者へも声かけして働きかけている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員トイレ排泄を念頭にオムツの工夫や誘導方法等話し合いをしている	トイレでの排泄を第一に考え、排泄習慣を把握し誘導して、紙パンツから布パンツに戻った方がいる。リハパンもできるだけ夜だけに限定使用している。便秘予防にヨーグルトを多く摂るように献立を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を心がけ毎日の牛乳やヨーグルトの提供、時には腹部マッサージを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の割り振りはしているが、受診前日や美容院へ行く前日等希望時には柔軟に対応している	入浴日や時間帯は決めているが、本人の希望や必要に応じて対応している。保湿性のある入浴剤を使用したり、音楽を流したり、楽しく入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠も考えて日中の休息は長くないように短時間とするよう声かけしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を誰でも確認しやすいようにしており、申し送りノートも活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や掃除、音楽、散歩、買い物外出の支援を日常的にしており、希望時はもちろん職員からも働きかけをしている		

グループホーム くつろぎ(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑仕事や散歩、買い物(毛糸や珈琲、本人用の食材等)支援は常時行い、自宅を見に行く等もしている。今年はしていないが勤務体制を整えて遠方にも出かけたことがある	畑仕事をしたり、散歩に出かけたり、買い物と一緒にするなど日常的に外気に触れるように支援している。個人的な買い物に職員が付き添って外出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に対してリスクも含めて説明させて頂き数人であるが個人で手持ちして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にかけられるようになっており、年賀状やお礼の葉書等のやりとりも支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り物、季節毎のものを用意したり、無臭や微香の芳香剤等を使用している	居間は明るく陽光に満ちて、ソファ・テーブルや椅子が配置され居心地が良く、利用者はそれぞれ好みの場所で寛いでいる。壁には写真や職員と一緒に作った作品、季節を示す品々が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を変えたり離れたところにも座れるよう配置してもある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをお願いしており写真や仏壇、冷蔵庫、のれん等を使用している	カーテン・絨毯などは家族と相談し、利用者の使い慣れた家具を持ち込み冷蔵庫も備え、家族写真・小物などが飾ってある。仏壇のある人には毎朝、ご飯が用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とは言えないが入浴時の椅子やトイレの手すり等必要なものは設置するよう努めている。手すり等に保護カバーをつけている場合もある		